

2010年3月期 第1四半期決算IR説明会(2009/7/31開催)

質疑応答

Q:生活産業セグメントは肥料が厳しかったため経常利益が赤字となっているとのことだが、その他の繊維、不動産、食料の状況は？

A:物資・繊維については、昨年行った繊維再構築により、赤字体質からは脱却することができた。肥料については第2四半期から黒字化する見通し。不動産については若干厳しいと考えており、収益はあまり期待していない。

Q:ロシア・NIS地域での自動車在庫の現状は？

A:ピーク時から比べれば半分近くに減っているが、販売台数が減少しており、当初見通しよりも少々遅れるだろう。

Q:生活産業は肥料事業が第2四半期以降黒字化し、状況が良くなるのか？

A:第1四半期は肥料のほかに原木、合板などの木材事業の落ち込みも影響した。しかし住宅着工件数等、7月以降から改善の兆しがでてくるという見方が多くなっている。

Q:第2四半期以降の回復を見ているという事だが、期初計画は達成できるのか？

A:環境が非常に不安定な中で懸念材料はあるが、第2四半期からの黒字転換が環境的にも可能な状況になりつつあると考えている。従い現時点では期初見通しは変更しない。

Q:第2四半期の見通しについて、セグメントごとの見方を教えて欲しい。

A:上期の累計で経常利益が黒字にならない本部もあると考えているが、エネルギー・金属部門は概ね黒字を確保でき、化学品・機能素材部門も黒字化すると考えている。

Q:肥料の在庫は第1四半期にどの程度削減し、第2四半期はどの程度削減できる見通しか？またその他の在庫の削減の状況は？

A:たな卸資産全体ではピーク時は昨年9月で4,520億円。この6月は3,542億円で、ピーク時と比較して約1,000億円削減している。例えば肥料はピーク時の約1/3にまで減らした。

Q:第1四半期の赤字の中で想定外だったことは？

A:もともと第1四半期は厳しいと見ていたが、黒字は維持できると考えていた。市況が予想以上に厳しく、また取扱量についても想定以上に落ち込んだ。

以上